

世界的課題の地球温暖化対策にチャレンジ 災害対応や地域産業振興にも貢献

1952年創業。し尿汲取、浄化槽維持管理、給排水設備の管理・修繕工事等を行う。近年、地球温暖化が騒がれるなか、「我々にできることはないのか」との発想から、2005年よりバイオディーゼル燃料の製造に取組む。2017年には、全国のバイオディーゼル燃料のなかで初めて、同社の製品がエコマークの認定を受け、高純度化（高品質化）を実現するとともに、二酸化炭素の大幅な削減にも貢献している。

●所在地 宮城県大崎市古川狐塚字西田77番地

●電話／FAX 0229-27-3151／0229-27-3155

●URL <http://www.clean77.jp/>

●代表者 代表取締役 千田 信良

●設立 1991年

●資本金 1,000万円

●従業員数 40人



RE100への挑戦。パリ協定・温室効果ガス削減への取組

地球温暖化対策が世界的に緊急の課題となるなか、バイオディーゼル燃料は化石燃料の代替燃料として利用拡大が期待され、世界的にも、日本国内でも供給より需要が大きい状態が続くと考えられている。その大きな要因として、「世界的な温室効果ガス削減の枠組の策定」がある。同社は宮城県内において、宮城県やグリーン購入ネットワークの協力を得ながら、バイオディーゼル燃料の普及や自社内におけるエネルギー地産地消を通じRE100プロジェクトに挑戦している。



二酸化炭素排出削減への貢献

廃食用油の高度再資源化による持続可能型社会への取組

地元大崎市はバイオマスタウン構想を2009年に公示しており、同市から業務委託を受けて市内16箇所から廃食用油の定期回収を行っている。回収した廃食用油はリサイクルされ大崎市の公用車の燃料として供給されている。また近隣自治体の大衡村でも同様に村民回収が行われ、農業用トラクターやコンバイン燃料として利用されている。一方、建設業界では建設現場における二酸化炭素の廃出量を削減する目標を掲げており、バイオディーゼル燃料の利用拡大が進んでいる。



高純度・高品質のバイオディーゼル燃料

大手企業との災害協定締結と子供達への環境出前講座の実施

ネクスコ東日本、NTT東日本と災害協定を締結。常に使用する作業車等でバイオディーゼル燃料が利用されている。建設工事現場には、同社のタンクローリーでパトロール給油を行っている。また、宮城県と大崎市と連携し子供達への環境出前講座を行っている。さらに、地元の中小企業4社で出資・設立した「おおさき未来エネルギー株式会社」では、大崎市の市有地を活用した大規模太陽光発電事業を通じ、エネルギーの地産地消を推進。その売電収益の一部を地域の産業振興のために活用している。



メガソーラー発電事業